

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271900254		
法人名	医療法人社団沖田内科医院		
事業所名	グループホームさくら こもれびユニット		
所在地	島根県浜田市金城町七条ハ564番地1		
自己評価作成日	令和2年5月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3271900254-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号
訪問調査日	令和2年6月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設の運営理念の3つの柱①家庭的な雰囲気②尊厳の確保と自立支援③地域密着の理念を周知し、実践するように努めている。具体的に①は、一緒に家事をする。食事の献立に配慮し、馴染みの味や好みを把握するようにしている。②は、年長者である入所者ひとりひとりの人格を敬い、ことばや態度に配慮するように努めている。笑顔で挨拶するようにしている。職員は、入所者がひとりでもできるだけ手伝わないように、安全を確保している。毎日、ラジオ体操をしている。畑仕事をする。③は、ボランティアや家族の面会を積極的に受け入れている。また、法人内に診療所があり、24時間体制で連携している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体う沖田内科医院が隣接しており、利用者も方全員がかりつけ医とされ医療面でも本人、家族は安心されています。
管理者、職員は認知症をよく理解され利用者がその人らしく生活が出来るように心掛けておられます。また、家族の面会やボランティアも積極的に受け入れられています。
利用者の表情は明るく、職員と一緒に食事の配膳や洗濯物たたみ、畑の草取り等、それぞれの役割を持ち生活されています。天気の良い日は庭に出て日向ぼっこをされたりホームの畑を見に行ったり穏やかに過ごされています。
「新型コロナウイルス」の感染防止のため細目な換気や「密集しないよう」利用者同士との距離をとり生活をされています。利用者、職員は手洗いや手指消毒液を使用し感染防止が行なわれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の一つに「地域に密着し、開かれたホームになるようにします」と掲げ取り組んでいる。朝礼で、運営理念・ケア理念を唱和している。運営理念を記載した名札を携帯することで、周知している。	毎週月曜日の全体朝礼で運営理念・ケア理念を唱和されています。職員は名札の裏に運営理念・ケア理念を記載され携帯され、理念に基づき日々実践されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会ボランティアが、4月の交流会、9月の敬老会に参加し催し物の振る舞いがある。また地域の人達に粽作り、畑仕事等のボランティアの訪問が定期的にある。	地域の老人会ボランティア、保育園との交流、ちまき作り、窓拭き、畑仕事を行われ交流されています。お世話になっている薬局などに手作りちまきを配られました。4月の敬老会、春の家族会は「新型コロナウイルス」感染防止のため中止となりましたが、地域の方々との交流は継続されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の入所申込に来る家族に、空室状況や他のサービスの利用の案内をしている。		
4	(3)	○市町村との連携 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の役場の保健婦や町内会役員の意見や情報を職員で共有し、業務内容を修正している。	2ヶ月に1回開催されています。現況報告、行事予定、利用者状況、職員研修の報告等意見交換をされサービスに活かされています。3月、5月の会議は「新型コロナウイルス」対策として書面海佐とされました。法人施設、グループホームで感染対策の継続の説明、周知されました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場などで、情報公開を行っている。地域の役場の担当者と情報交換を行っている。	運営推進会議に支所の保健師さんが参加されています。事業所の実情や取り組みを報告、相談され連携を図られています。「新型コロナウイルス」の対策、対応について情報をもらわれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回、身体拘束委員会を開催し全職員に周知するようにしている。日頃から身体拘束に係るグレイゾーンについて、職員同士お互いので注意しあっている。	身体拘束適正委員会を3ヶ月に1回開催され、全体会議等で全職員に会議内容を周知されています。日頃から職員間で身体拘束をしない方法やスピーロックについて話し合われ、身体拘束をしないケアの実践に取り組まれています。日中は玄関の鍵をかけないようにされ利用者の様子に気を配りケアが行われています。スピーロックがある時は、管理者の指導や職員間で話し合われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修で虐待について学び、職員による虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	すべての職員が理解しているわけではないが、必要と判断した場合は、行政及び知人に相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に文章と口頭で、本人及び家族に説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者及び家族の要望や苦情は適宜対応するようにしている。苦情相談窓口(担当者)を配置している。	苦情相談窓口、担当者も設置されています。家族会、利用者面会時に意見・要望等を聞いておられます。運営推進会議にも家族代表に参加頂き、意見・要望を頂く機会が設けられています。家族会や個別の意見等を職員会議等で検討し運営に反映させています。面会が少ない方等にはさくらだより送付で利用者の様子や行事等知らせし、電話等で要望等を聞いておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の各ユニット会議、全体会議にて職員の意見や提案を聞き、反映させている。	毎月の各ユニット会議や全体会議で意見や提案を聞き検討されサービスに反映されています。ユニット内で解決できる事は随時解決されサービスに反映されています。新型コロナウイルスの対策、対応が行なわれています。法人会議に管理者は参加され提案、要望等話すことができます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、日頃から意見や提案を聞くよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修については、参加日にあわせて勤務を組むなどの配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	金城地区福祉施設防災会議連絡会を地域の8施設で構成し、定期的に交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前は本人と面会し、不安や望みなどを受け止める努力をしている。短期入所利用をすることで入所前にかかわりを持つようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネと情報交換する。本人家族と面談し問題解決に取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人、家族の状況が当施設の役割に適合するか判断する。また、併設の診療所や老健と相談し検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の尊厳を尊重し、年長者の立場を理解した人間関係を作っている。家庭的な雰囲気意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時、家族と情報交換している。外出外泊は、積極的に家族に協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、その関係を断ち切らないよう支援に努めている。利用者に手紙を書くことを勧めている。電話で交流することがある。	生活暦や人間関係、社会との関係を把握し関係継続に努めておられます。墓参りに家族と出かけられる方や馴染みの美容室や福祉理美容を利用され馴染み人や場の関係が継続が行われています。馴染みの人との関係を継続できるよう手紙を書くことを勧められています。電話で話をされ関係の継続を努めておられる方もあります。ユニット毎に利用者を理解され係りつけ医受診時や敬老会、家族会、買い物等行われ馴染みの人や場との関係継続の支援が行われています。	関係継続支援が行なわれた場合には、可能な限り、利用者の方の多くお話して頂き、顔衣双方に繋がられると良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や生活歴を把握し、利用者同士の愛称を見極め対応している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した家族が、ボランティアに来る。他施設に入所した場合、しばしば訪問又は電話で様子を聞く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成の際は、一人一人の思いや暮らし方の希望、意向を本人、家族等に確認するように努力している。	一人ひとりの思い暮らし方の希望、意向を本人、家族等に確認されながらケアプランに取り入れられています。畑にはジャガイモ、さつまいも、小玉ねぎが植えてあり利用者の方が草取りをされていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴等本人から聞くと同時に家族にも情報提供を受けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできる力・わかる力を暮らしの中で発見し能力を活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族等の気づきや意見、アイデアを出し合い、話し合った結果をもとに介護計画を作成している。定期的にケアミーティングを実施しているが、状況に変化が生じた場合は関係者で話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアプラン作成に伴い各ユニットで課題やケアについて本人、家族等の気づきや意見、アイデアを話し合い、検討され計画作成者がケアプランを作成されています。評価は6ヶ月に1回実施されています。定期的にケアミーティングを実施されています。状態に変化があったときは見直し、プラン変更が行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や連絡ノートから情報を共有し、実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の暮らしを職員が継続的に支えることを大切にした支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの積極的な受け入れや消防署等、地域資源を活用しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用開始前にかかりつけ医の希望を確認している。事業所の医療機関をかかりつけ医とする場合は本人、家族の同意を得ている。	サービス利用開始前にかかりつけ医の希望の確認を行われ利用者、家族全員、母体の沖田内科医院をかかりつけ医とされています。本人、家族は沖田医院がホーム近くにあること、夜間でも連絡し指示等あり対応されるので安心されています。歯科、眼科、整形等他科受診は家族が同行受診されます。家族が出来ない場合は職員が対応されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設に診療所と介護老人保健施設があり、連携している。協力医療機関(浜田医療センター)と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は医療機関に本人に関する情報提供を行い、退院計画は病院関係者、本人、家族と話し合い必要な支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族等、かかりつけ医等ケア関係者と話し合いを繰り返し、対応方針の共有を図っている。対応が可能なこと、困難なこと、不安なこと等を職員全体で話し合い、家族や医療関係者等と連携を図りながらチームで支援している。	入所時に重度化や終末期に向けた方針の説明をしておられます。重度化や看取りが必要になった時は本人、家族、かかりつけ医と話し合い対応方針を共有されます。対応が可能な事・困難な事・不安な事等を職員間で話し合い家族や医療機関等と連携されながらチームで支援されます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	金城沖田医院と速やかに連携できるようにしている。診療所が休みの場合は、転送電話に連絡する。全ての職員が、実践力を身に付けてとは、判断できない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを整備している。2回/年、消防訓練を行っている。	年2回消防訓練が行われています。マニュアルを整備されています。初期消火、避難誘導、消火訓練が行われています。グループホームにはADEは無いのでホーム看護師が併設老健さんより借りて来られます。地域の消防団に非常災害時の連絡先に登録依頼をされています。備蓄は水・缶詰・米を準備されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を受けたことにより、言葉使いに注意し確認と改善に向けて取り組んでいる。プライバシーの確保、個人情報の漏洩防止について会議や朝礼で徹底している。	年1回法人内の接遇研修に参加されています。研修後は言葉遣いに注意し一人ひとりの尊重とプライバシーの確保・改善に取り組まれています。誇りやプライバシーの確保と個人情報の漏洩防止について職員会議や朝礼で周知、徹底に努めておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の希望や好みを把握している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを尊重し、今日をどのように過ごしたいか、一人一人のその日の望みを知ることが大切にし、それに応じて柔軟に支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の望む床屋に出かけたり、美容院よりカットに来ていただいたりしている。化粧品の購入を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけは、利用者と一緒にやっている。又、一緒に食事を味わいながら会話を楽しくしている。一緒に献立を考えている。	利用者と一緒に献立を考え調理をされています。食事の準備、片付け、食材切り、配膳、茶碗拭き、味見をしてもらう等一人ひとりの力を活かし職員と一緒に行われています。職員は利用者と一緒に食べられ季節の話等会話を楽しまれています。食事前には利用者、職員は手洗いや手指消毒液で感染防止を行われています。「コロナウィルス」対策として、家族と外出をされ食事をされる事や敬老会のバイキング、春の家族会の食事、地域のレストランでの外食等中止とされました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い献立、利用者の嚥下能力を考えきざみ、ミキサー食で栄養摂取の対応している。水分量も一人一人に合わせ確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後の義歯ブラッシング、ポリデント実施(水、日)や自分でできる方は歯磨きしてもらい口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し記録している。出来る限りトイレにて排泄出来るよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握され利用者に沿ったトイレで排泄の支援が行われています。利用者、個々の排泄記録があります。ポータブルトイレを日中、夜間共居室で使用する事で失禁が少なくなるよう本人の安定を図られています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や食物繊維を多く含む食材を使用するなど、一人一人に応じた自然排便を促すよう工夫している。チェック表で確認し薬のコントロールができています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回以上は入れるよう支援している。時間帯は夕方。	週2回以上、午後入浴が行われています。一人ひとりの健康状態を把握し本人の意向も取り入れ、入浴を楽しまれています。拒否の方や抵抗される方は声掛けや工夫で週1回は入浴をされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムに配慮し、日中でも昼寝を促すなど、状況や状態に応じた声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量については、ファイルしてあり理解している。適宜主治医に相談している。看護師が服薬の管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみ、料理の盛り付け、食器洗い、掃除、塗り絵、編み物、歌、畑仕事など、個々の力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所のスーパーへ買い物同行してもらうなど、外出できるよう個別の支援をしている。家族の協力を得ている。	近所のスーパーに家族の協力を得て買い物に出かけておられる方がいます。天気の良い日は庭に出て日向ぼっこをされたりホームの畑を見たり、時季の野菜の収穫もされます。ドライブで花見に出かけられたり家族に外出支援を呼びかけておられます。「コロナウイルス」対策として、スーパーの買い物や家族との外出、季節の外出等中止をされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、できるだけ応じている。少額(1万円以内)の買い物はいつでもできるよう、家族に了解を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話で外部との交流ができるよう個別に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の時はテレビは消すようにしている。障子を使用する事で温かみのある共用空間や季節感を感じて頂けるような飾り付けなど環境づくりを工夫している。	共用の空間には季節を感じられる飾り付けをされています。食事の時間はテレビを消し職員と会話をしながら食事をされます。不快音が出ないよう隙間にテープ等使用し防音対策をされ居心地よく過ごせるような工夫をされています。ペランダではめだかが飼っており利用者が餌やりされます。「新型コロナウイルス」感染防止のため 共用空間や居室は定期的な換気を行い、エアコンで温度管理をされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室や廊下に長椅子を設置するなどして、独りになれたり、気の合ったご利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ物(家具、仏具、写真等)を持ち込んで頂くなど、本人・家族と相談しながら居室を工夫している。	居室は使い慣れた家具やテレビ、仏具、衣類、好みの物を持ち込まれ過ごし易く工夫されています。居室、トイレ、廊下等必要な場所に手すりを設置されたり、手作り歩行器や滑り止めつきの靴下をはかれる方もあり転倒を防ぐ等対応されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手作り歩行器の使用や滑り止め付きの靴下の使用など自立して生活できるよう工夫している。一人一人の居室がわかりやすいように、居室入り口に名前の張り紙をして自分の居室と認識できるよう工夫している。トイレに張り紙をしている。		